ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅱ

科目コード	CS4185

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	3年以上	田中　尚

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク（相談援助）について、実践事例を交えて、具体的、実践的な学びを深める。特に、精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践の固有性、特殊性を踏まえながら、ソーシャルワークによる援助（支援）がどのように展開され、その意義や価値、支援方法や実践技術がどのように適用され、実践場面の中で位置づけられるのかを学びます。また、ソーシャルワークの地域を基盤としたメゾレベルの実践やマクロレベルの実践に焦点を当てるとともに、ソーシャルワーク実践の基礎理論になる原理などについても学びながら、ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク実践の全体的な理解を深めていくことを目指します。

■到達目標

1）精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの実践例から価値、理論、方法を統合的に学び、精神保健福祉士としての専門的相談援助について理解することができるようになる。

2）精神保健福祉の実践現場での具体的事例を通して、ソーシャルワークの技術を習得することができる。

3）精神保健福祉士の現場実習における具体的なソーシャルワーク（相談援助）の展開、技術を理解することができる。

4）精神保健福祉分野におけるソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロレベルの実践について統合的に理解できるようになる。

5）ソーシャルワーク実践の基礎理論について理解することができるようになる。

6）今日の精神保健福祉の領域の広がりとその意義、必要性に理解することができるようになる。

■教科書（「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座［専門科目］6　ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』中央法規出版、2021年

※（「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション

力」「他者配慮表現力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

1）公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規出版、2017年
2）公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『ソーシャルワークの面接技術と記録の思考過程』中央法規出版、2017年
3）公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『社会資源の活用と創出における思考過程』中央法規出版、2019年
4）白澤政和編著『ケアマネジメント論』ミネルヴァ書房、2019年
5）渡部律子著『「人間行動理解」で磨くケアマネジメント実践力』中央法規出版、2013年

■履修登録条件

この科目は、「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

・ソーシャルワークの価値、知識、技術（方法）について学ぶ
・ソーシャルワークの展開（実施）について学ぶ
・精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの特殊性と意義について学ぶ
・ソーシャルワークのメゾ・マクロレベルの実践理論がどのように形成されてきたのかを学ぶ
・精神疾患、精神障害が歴史的にどのように位置づけられてきたのかを学ぶ
・今日の精神保健福祉の課題が幅広いメンタルヘルスの課題としてソーシャルワーク実践に欠かせないものであることを学ぶ

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ガイダンス　ケアマネジメント概論	ケアマネジメントの定義、概要
2	コミュニティワーク歴史	COS、セツルメント、コミュニティオーガニゼーション
3	コミュニティワークの技術と方法	アウトリーチ、ソーシャルアクション
4	精神障害者の地域包括ケアシステム	地域包括ケア、ACT、セルフヘルプ
5	多職種連携とソーシャルアドミニストレーション	多職種・多機関連携、チームアプローチ、組織アセスメントと運営管理

回数	テーマ	内容
6	ソーシャルワーク実践の基礎理論①	来談者中心アプローチ、精神分析的アプローチ
7	ソーシャルワーク実践の基礎理論②	認知・行動理論アプローチ、システム理論アプローチ
8	ソーシャルワーク実践の基礎理論③	ソーシャルサポート、発達理論
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。また、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング　評価基準

・スクーリングの最後に試験を行います。その試験については、授業で用いた資料の範囲から出題します。教科書・資料・ノートの持込みは不可とします。

・特に、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 〜10時間）

・スクーリング授業の範囲内である、教科書の第 1 章から第 2 章は読んできてください。

・普段から精神保健福祉分野に関するニュースや新聞の記事などに目を通すようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	地域を基盤としたソーシャルワーク①	ケアマネジメントと地域ケア	ケアマネジメントの展開方法、実施体制、地域ケア体制づくりについて学びます。
2	地域を基盤としたソーシャルワーク②	コミュニティワーク歴史	地域福祉、地域ケア、コミュニティワークの歴史的展開過程とその意味について学びます。
3	地域を基盤としたソーシャルワーク③	コミュニティワークの技法・方法	コミュニティワークにおける具体的な技法、方法について事例を通して学びます。
4	地域を基盤としたソーシャルワーク④	精神障害者にも対応した地域包括ケア	今日の政策的課題でもある「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に関する実践について学びます。
5	地域を基盤としたソーシャルワーク⑤	アウトリーチ、ソーシャルアクション	ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践を包括的に展開していくための技法としてのアウトリーチ、ソーシャルアクションについて学びます。
6	精神保健福祉分野における家族支援	家族理解とアプローチ（方法）	家族会支援、心理教育など、精神障害のある人びとにかかわる家族に対する理解の視点と支援方法について学びます。
7	多職種連携	チームアプローチ	精神保健福祉分野における医療、保健、福祉の連携として、チームアプローチの実践方法について学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	ソーシャルアドミニストレーション	実践組織のアセスメントと運営管理	ソーシャルワークを実践する機関、組織の構造と機能についてのアセスメントと、それらに基づいた運営のあり方について学びます。
9	精神保健福祉分野の新たな実践	司法、教育分野でのソーシャルワーク	精神保健福祉分野の広がりとして、司法や学校・教育分野でのソーシャルワークの実践とその課題について学びます。
10	ソーシャルワークの実践基礎理論①	来談者中心アプローチ	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、来談者中心アプローチがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
11	ソーシャルワークの実践基礎理論②	精神分析的アプローチ	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、精神分析的アプローチがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
12	ソーシャルワークの実践基礎理論③	システム論アプローチ（家族システムを中心）	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、システム論アプローチがどのように適用（応用）されているのか、家族システム論を中心に、その範囲・内容と活用方法について学びます。
13	ソーシャルワークの実践基礎理論④	認知・行動理論アプローチ	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、認知・行動理論アプローチがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
14	ソーシャルワークの実践基礎理論⑤	ソーシャルサポート	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、ソーシャルサポートがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
15	まとめ		

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実践において、何故、メゾ・マクロレベルの実践が重要であるかについて、具体的な実践課題を例示して2,000字程度で述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

論述式レポートの作成においては、レポート作成の基本的な形式やルールを順守して作成してください。また、レポート課題の意図を理解し、論点を絞って記述するようにしてください。そのうえで、根拠や論拠を踏まえて、自身の意見や考えを述べるようにしてください。

■レポート評価の基準

1）論旨に一貫性があって論理的な説明になっているかどうか。なっていない場合などにおいて減点。
2）内容がレポート課題の趣旨や出題の意図に沿ったものであるかどうか。
3）自分なりの意見や考えが盛り込まれているかどうか。
4）誤字や脱字、漢字の変換ミス、不適切な表現や誤った概念の理解などがないかどうか。あった場合などにおいて減点。

科目修了試験

■評価基準

上記のレポート評価の基準に加えて、『レポート課題集』にある本科目全体の内容についての理解を問います。また、解答字数は、800字以上を基準とします。